

第29回 あみ全国大会 in 大阪



共に歩もう！創ろう！切り拓こう！
精神障がい者地域生活支援の明日^{あした}
～守りたいだけやねん、心ある支援を～

2026年11月6日(金)～7日(土)
@エルおおさか 大阪府立労働センター

主催：NPO法人 全国精神障害者地域生活支援協議会

第29回 全国大会 in 大阪 開催にあたって

大会実行委員長 勝田 武司

私たちは精神障がい者の支援事業所を正会員とし活動する全国団体（NPO法人）として1997年の結成から今年で29年を迎えます。作業所の法定化、地域格差の是正、ネットワーク化の推進をテーマに活動をスタートし、法制度が変わる中で精神障がい者の地域での暮らしを守る活動を続けてきました。また年1回の全国大会を開催しており今年の全国大会は大阪での開催となりました。

現在は、昨年から世間を騒がせている不正受給問題など、就労系事業から居住系事業に至るまで、多くの問題ある事業運営や支援サービスを行う事業者が現れました。さらにそういった事業者が大阪に集中し増加するという現象が起きてきました。利益だけを追い求める悪質な事業者によって、私たちが大切に築いてきた地域生活支援の信頼や土台が揺らいでいるという現実があります。

そして国も障がい福祉サービスの総予算が増大していることを受けての総量規制や、就労系サービスでの時間軸による支援の評価（報酬改定）が検討されています。工賃が高い事業所が評価され、生産性の高い障がい者が重宝され、短時間しか働けない障がい者（生産性の低い方）が排除される、そのような仕組みになりつつあることに私たちは強い危機感を感じています。

優生思想につながるような福祉の仕組みに警鐘を鳴らしつつ、私たちが行ってきた福祉も問い直すことから、心ある真の支援を守り創造を続けていくための決起集会となるような大会を目指します。

大会概要

- 大会テーマ：共に歩もう！創ろう！切り拓こう！精神障がい者地域生活支援の明日^{あした}
～守りたいだけやねん、心ある支援を～
- 開催日時：1日目 2026年11月6日(金) 13:00～17:00（受付12:00～）
2日目 2026年11月7日(土) 9:30～16:50（受付9:00～）
- 開催場所：エルおおさか（大阪府立労働センター）【1,天満橋駅より西へ300m、2,北浜駅より東へ500m】
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14 TEL:06-6942-0001
- 開催方法：会場参加
- 申込締切・大会参加費：今大会も申込期間によって大会参加費が異なる「早割」を行っております。
「早割」期間：申込開始～2026年9月30日(水)
「早割以降」期間：2026年10月1日(木)～2026年10月31日(土)

期間	「早割」	「早割以降」
申込締切	2026年9月30日（水）	2026年10月31日（土）
① 会員・賛助会員	6,000 円	7,000 円
② 一般（非会員）	8,000 円	9,000 円
③ 当事者・家族・学生	1,500 円	2,500 円

- 活動交流会参加費 6,500円（11月6日金曜日 18:00～20:00）
※活動交流会のお支払は、当日現地にて現金払いでお願いいたします。

問い合わせ先

- 第29回全国大会 問い合わせ窓口担当
社会福祉法人 明日葉 守口市障がい者自発的活動支援事業 サロンほっこる（担当：勝田）
〒570-8666 大阪府守口市京阪本通2-5-5 守口市役所5階
TEL：090-1714-3630 メールアドレス：amiosaka2026@outlook.jp
（メールでのご連絡の方が助かります。）
- あみ事務局：東京都杉並区天沼2-3-9 伊藤ビル2階
TEL：03-6383-5673（対応日時／平日 10:00～15:00 ※土日祝を除く）
E-mail：info@ami.or.jp

スケジュール

11月6日(金) 大会1日目

12:00 ～13:00	受付開始 (60分)
13:00 ～13:20	オープニング・開会式 (20分)
13:20 ～13:30	休憩 (10分)
13:30 ～14:00	あみ基調報告 (30分) 報告者：あみ代表 内山 澄子
14:00 ～14:15	地域精神保健福祉サポートセンター 活動報告 (15分) 報告者：吉永 圭佑さま 地域精神保健福祉サポートセンター 小佐野 啓さま 地域精神保健福祉サポートセンター
14:15 ～14:25	休憩 (10分)
14:25 ～15:45	記念講演 (80分) 「改めて支援を問う ー共に未来を構想するための社会福祉史ー」 講師：藤井 渉さま (日本福祉大学)
15:45 ～16:00	休憩 (15分)
16:00 ～17:00	特別講演 (60分) 日弁連「精神障害のある人の尊厳の 確立を求める決議」と“大連帯会議”発足 ～本質問題から逃げずに 現実を1ミリでも動かそう 講師：長谷川 利夫さま (杏林大学)
18:00 ～20:00	活動交流会 @大阪キャッスルホテル(120分)

11月7日(土) 大会2日目

9:00 ～9:30	受付開始 (30分)
9:30 ～12:30	分科会 1～5 (180分) ※各分科会で途中、休憩をはさみます
12:30 ～13:30	昼休憩 (60分)
13:30 ～14:30	行政報告 (60分) 報告者：遠藤 径至さま 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐
14:30 ～14:40	休憩 (10分)
14:40 ～16:40	シンポジウム (120分) 共に歩もう！創ろう！切り拓こう！ 精神障がい者地域生活支援の明日 ～守りたいだけやねん、心ある支援を～ 進行 藤川 治彦 (あみ理事) 出口 珠紀 (あみ理事) 登壇者 ・遠藤 径至さま 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐 ・市川 亨さま 共同通信社 デジタル編成部次長 (デスク) ・古田 朋也さま (社福) あいえる協会理事長 ・近藤 淳 (あみ事務局長)
16:40 ～16:50	クロージング・閉会式 (10分)

各プログラムの詳細はP 3 以降でご確認ください



11月6日(金) 大会1日目 プログラム

13:30 ～ 14:00 あみ基調報告

報告者：あみ代表 内山 澄子

あみの理念や方針、普段、どのような活動を行っている団体なのかなどについてご報告させていただきます。

14:00 ～ 14:15 地域精神保健福祉サポートセンター活動報告

報告者：吉永 圭佑さま 地域精神保健福祉サポートセンター

小佐野 啓さま 地域精神保健福祉サポートセンター

自然災害で被災した精神障害者支援事業所の復興を支え、未来へつなぐために「今、私たちにできる支援」のこれまでの活動についてご報告いただきます。

14:25 ～ 15:45 記念講演「改めて支援を問うー共に未来を構想するための社会福祉史ー」

講師：藤井 渉さま 日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授

今まさに福祉の現場で起きていること、それは私たちが大切にしてきたものが奪われるかもしれない、という危機感を伴っています。ここで改めて、守りたいもの、守るべきもの、心ある支援とは何か、私たちひとりひとりが自分に問い直し、自分なりの答えを見つけて実践していくことが求められます。

記念講演では「改めて支援を問うー共に未来を構想するための社会福祉史ー」というタイトルで、研究者である藤井渉先生にご講演いただき、歴史的観点から支援を問い直し、これからの福祉と支援について考えるきっかけを頂きます。参加者ひとりひとりが新しい視点に出会うことで、目の前の課題に向き合う道筋を見つけることが出来ればと思います。支援の明日を切り拓く一歩を、今ここに踏み出しましょう。



プロフィール

日本福祉大学社会福祉学部准教授。日本福祉大学学生支援センター長。博士（人間福祉学）。社会福祉士。専門は障害者福祉論です。障害のある方への支援について、歴史的な角度から研究しています。元々、障害者の旅行支援を通して大阪で障害者福祉のNPOの立ち上げと運営に携っていました。現在、医学史研究会幹事、ウェルビーイング工学研究センター幹事、NPOディフェンス理事、大阪精神医療人権センター面会スタッフ、社会福祉法人めぐり評議員、大阪市・名古屋市・愛知県・内閣府・日本学生支援機構で障害者施策に関する委員など。主著：『ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』ー「役立たず」の歴史に抗う福祉実践』現代書館、『障害とは何かー戦力ならざる者の戦争と福祉』法律文化社など。近著に、『わが子に障害があるとわかったときにまず読む本』KADOKAWAなど。

16:00 ～ 17:00 特別講演 日弁連「精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議」と“大連帯会議”発足～本質問題から逃げずに現実を1ミリでも動かそう

講師：長谷川 利夫さま 杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科 教授

2021年11月に日弁連は「精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議」を採択した。それは2035年までに精神医療における強制入院を廃止することを目指し、そこに至るまでの短期工程、中期工程、最終工程の内容を記したロードマップも提示したものだった。2023年から様々な関係者が集いその実現に向けての話し合いが行われ始めた。2026年7月24日、都内でメディアも招いての「設立の会」が行われた。しかし、果たしてその目標達成は可能なのか？実は短期工程は2025年末までだったが達成率は0%だった。文書でその必要性を述べることと現実を動かすことは天と地の違いがある。運動を進めるにあたって、“理性的な人間が合理的な判断をくだす”という考え方からだけでは何も生み出すことはないだろう。それは何故なのか？そして我々はどうすべきなのか？共に考えたい。

プロフィール

1987年 國學院大学法学部法律学科政治学コース 卒業（法学士）

2010年 新潟医療福祉大学医療福祉学研究所

保健学専攻博士後課程 修了（保健学博士）

2011年 杏林大学保健学部作業療学科 教授 現在に至る。

（主な学会活動等）

一般社団法人 日本身体拘束研究所 理事長

日本病院・地域精神医学会 副理事長

精神保健従事者団体懇談会 代表

（主な著書）

『精神科医療の隔離・身体拘束』（日本評論社）2013年（単著）

（主な論文）

“The use of mechanical restraint in Pacific Rim countries: an international epidemiological Study” Epidemiology and Psychiatric Sciences Cambridge University Press 2020年

『身体拘束』からみる失われる民主主義「世界」2023年5月号 岩波書店

9:30 ~ 12:30 分科会 1 ~ 5

- ・以下の5つより1つ選んでください。
- ・申込は先着となり、定員に達し次第、締め切らせて頂きます。

分科会 1

「就労」を捉え直す ー過去と現在を知り、私たちが描く未来のかたちー

登壇者

- 1) 新川 親義さま (社福) やなぎの里／大阪府枚方市
- 2) Tさま・奥地さま (社福) 明日葉まんまる／大阪府守口市
- 3) 勇川 昌史さま (社福) オリーブの会／京都市山科区
- 4) 澤井 勇志さま 大阪医専／大阪市北区

大会メインテーマが表す社会状況や支援現場の現状に対し、「就労支援」という大きなキーワードを、「職業準備性ピラミッド、障害者雇用、就労達成、半年以上の就労定着」という視点だけではなく、「精神障がい者が、地域で”より良く”生活する」という視点から考えてみたいと思います。

登壇者の発表で、「過去・実際の支援・現在と現状」を浮かび上げ、後半のグループワークで立場にこだわることなく「より良い未来」について参加者みんなで描いていくことを目的としています。

参加する支援者や当事者、ご家族の皆さまに「明日も頑張ろう！」という心の糧を持ち帰って貰うことが本分科会の達成目標です。

分科会 2

「10年後の地域活動支援センターを考える～“居場所”を超えた地域支援とは～」

登壇者

- 1) 森松 長生さま (NPO) 抱樸 専務理事／福岡県北九州市
- 2) ピアスタッフ、サポーター(調整中) (社福) かけはし／大阪府岸和田市
- 3) 現在調整中

「地域活動支援センターって、何をするとところですか。」そう聞かれたとき、あなたなら何と答えますか。

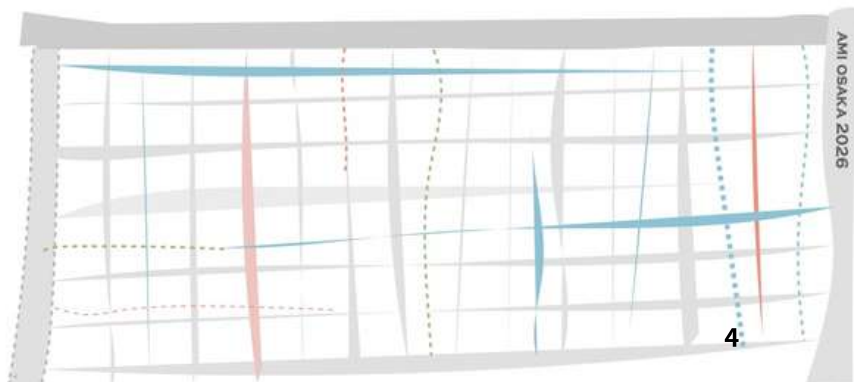
地域活動支援センターは、居場所づくりやピアサポート、人と人とのつながりなど、制度や数字では測れない価値を大切にしながら、一人ひとりの地域生活を支えてきました。今、孤立や貧困、高齢化など地域課題が複雑化する中で、地域活動支援センターに寄せられる期待はますます大きくなっています。

本分科会では、制度の枠を超えた地域づくりの実践や全国の地域活動支援センターの実践から学び、「これからも大切にしたいもの」「これからの地域活動支援センターだからこそできること」を参加者の皆さんとともに考えます。

私たちが積み重ねてきた支援には、胸を張るだけの価値があります。大阪で、その価値と未来を全国の仲間とともに描きましょう。

ami in OSAKA

2026



「メンタルヘルスにおいてはみんなピア」

司 会：丸山 智史さま NPO法人サラダ倶楽部/大阪府大阪市

登壇者

- 1) 鈴木 径一郎さま カフェフィロ副代表/兵庫県
- 2) 栄 セツコさま 桃山学院大学 社会学部/大阪府和泉市
- 3) 西川 孝さま (NPO) サラダ倶楽部理事長/大阪市東成区
- 4) 松尾 直子さま (NPO) サラダ倶楽部ピアスタッフ/大阪市東成区
- 5) 木下 美佳さま (NPO) サラダ倶楽部ピアスタッフ/大阪市東成区

これまでのピアスタッフ研修では、「ピアスタッフのあり方」について話し合われてきましたが、この分科会ではスタッフ×ピアスタッフ×利用者さんの関係性について考えていきたいと思います。

どのような環境があれば、ピアスタッフの専門性を生かして活動する事ができるのでしょうか。

『NKK (人間関係研究会)』では、誰もがもっている心の傷(トラウマ)をスタッフと利用者さんがお互いに表現し共有する事で真の対等性を追及しています。『哲学対話』では、「誰もが日常的に考えている事だが答えのない問い」をみんなで考えることでの対等性を大切にされる場を重視します。『ヒューマンライブラリー』では、様々な生きづらさの経験を持つ人を「本」に見立てて読者に貸し出す対話型イベントでの対等な関係性を目指します。

それぞれの活動からピアスタッフが生まれやすい環境とは何か、組織内でなにを大切にすればピアスタッフが長く安心して活動できるのか一緒に考えていきたいと思います。

「守りたいだけやねん、心ある支援を。」

～AI時代に問い直す、私たちの原点と明日～

司 会：吉岡 良太さま (社福) みとい福祉会/大阪府豊中市

登壇者

- 1) 田中 康雅さま (株) パパゲーノ/東京都杉並区
- 2) 毛塚 和英 (社福) はらからの家福祉会/東京都国分寺市(あみ理事)
- 3) 木下 将太郎さま トキノ(株)/大阪府門真市
- 4) 岡元 知穂さま (NPO) サラダ倶楽部ピアスタッフ/大阪市東成区

昨今、福祉においても「AI」という存在は切っても切れないものとなりました。AIを積極的に活用している方もいる一方で、AIを活用することに不安や抵抗がある方、もしくはそもそもAI自体がよくわからず使用したことがないという方もいると思います。

この分科会では、日頃からAIを活用されている事業者の方に講演いただき、座談会にて様々な立場の方の意見を交え議論し、最後はグループワークをすることで、AI活用における心理的な壁を取り払うことを狙いの一つとしています。また、分科会を通して「AIを活用しよう」ということをゴールとせず、「そんな時代に我々が本当に大切にすべきことは何か」を見つめなおす機会になればと考えています。支援者に限らず、AIを活用したい、興味があるけどやったことがない、不安を消したいという様々な目的があってもそれぞれに意味のある分科会にしたいと思っています。

「住む」支援を考える

登壇者

- 1) 鈴木卓郎さま (社福) 府中えりじあ福祉会西府いこいプラザ/東京都府中市
- 2) 渡辺邦弘さま 合同会社いずみ福祉会/福島県福島市
- 3) 佐古恵利子さま (NPO) いちごの会リカバリハウスいちご/大阪市東住吉区

今日の「障害福祉サービス」と呼ばれる支援の現場では、以前よりも、いわゆる直接的な「支援」のことはもちろんですが、制度の限界や課題、私たちのモチベーションの保ち方等で悩むことや葛藤することが増えているように思います。そこで私たちの分科会では、あらためて支援とは何かを居住にまつわる支援をテーマに参加者の方々と学びを深めたいと考えています。

分科会的前半では、登壇者の方々の講演から日頃の実践と、その原動力となる思いやエピソードを聞かせていただきます。後半は参加者の皆さんにグループに分かれていただき、皆さんの日頃の実践や思いを共有できる時間になればと考えています。制度に振り回されるだけではなく、それぞれの本当にやりたいこと、必要だと思うこと、やりようがあるんだということに結び付けられる分科会になればと思います。

13:30 ～ 14:30 行政報告

報告者：遠藤 徑至さま 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐

報酬改定に向けた就労系障害福祉サービスの検討状況を中心に、精神障害福祉に関する厚生労働省の最新の方針・考え方についてご報告いただきます。

14:40 ～ 16:40 シンポジウム

共に歩もう！創ろう！切り拓こう！精神障がい者地域生活支援の明日^{あした}
～守りたいだけやねん、心ある支援を～

登壇者

- 1) 遠藤 徑至さま 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐
- 2) 市川 亨さま 共同通信社 デジタル編成部次長（デスク）
- 3) 古田 朋也さま （社福）あいえる協会理事長／大阪市住吉区
- 4) 近藤 淳 あみ事務局長

障害者自立支援法の施行から20年。「3 障害統合」という理念のもと、それまで障害福祉の対象外であった精神障害者も制度の対象となり、利用できるサービスは飛躍的に充実しました。地域に小さな作業所があるだけだった時代から、都市部を中心に街のあちこちに就労系事業所があふれる時代へと変化し、当事者の選択肢は大きく広がっています。

一方で、コロナ禍以降の事業所の急増に伴い、多くの課題も顕在化してきました。過度な利潤追求が優先される中で不正・不適切な事業運営、障害者の人権や主体性を置き去りにした「支援とは呼べない関わり」の横行、さらには、都市部で選択肢が増えた一方で地方では事業所が増えず依然として「選べない」という地域格差の継続など、制度の構造的課題や相次ぐ報酬改定への対応も含め、今、福祉業界は大きな荒波の中にあります。

だからこそ今、私たちがこれまで重ねてきた実践や、大切にしてきた原点を見つめ直すことが求められています。支援現場、障害者運動、行政機関、報道、そして「あみ」——それぞれの立場を超え、「守りたいだけやねん、心ある支援を」をテーマに、会場の皆様と一緒に深めていきたいと思います。

ami in OSAKA 2026



活動交流会



日 時 2026年11月6日(金) 18:00 ～ 20:00
会 場 大阪キャスルホテル 6F（大阪市中央区天満橋京町1-1）
京阪本線・大阪メトロ「天満橋駅」直結
参加費 6,500円（当日、現金払いでお願いいたします。）

全国の仲間と交流しましょう。名刺を持ってご参加ください。
大阪から歓迎のおもしろい出し物あります。初めての方も楽しめます。
大阪大会実行委員会一同お待ちしております！



申し込み・支払い

申込はPEATIXでの申し込みとなります。

下記のコード、もしくはURLよりお申し込みください。

<https://peatix.com/event/5068336>

※今大会は参加費のキャンペーンを開催しております。

9月30日(水)までが「早割」のキャンペーン期間ですので、
ぜひ、ご活用ください。

※大会参加にあたり、疾病・障がいなどのために合理的配慮が必要な方は
申込時にご記入をお願いいたします。



【アクセス】

▼エルおおさか（大阪府立労働センター）

天満橋駅より西へ300m・北浜駅より東へ500m

〒540-0031 大阪府中央区北浜東3-14 TEL:06-6942-0001

ami in OSAKA 2026